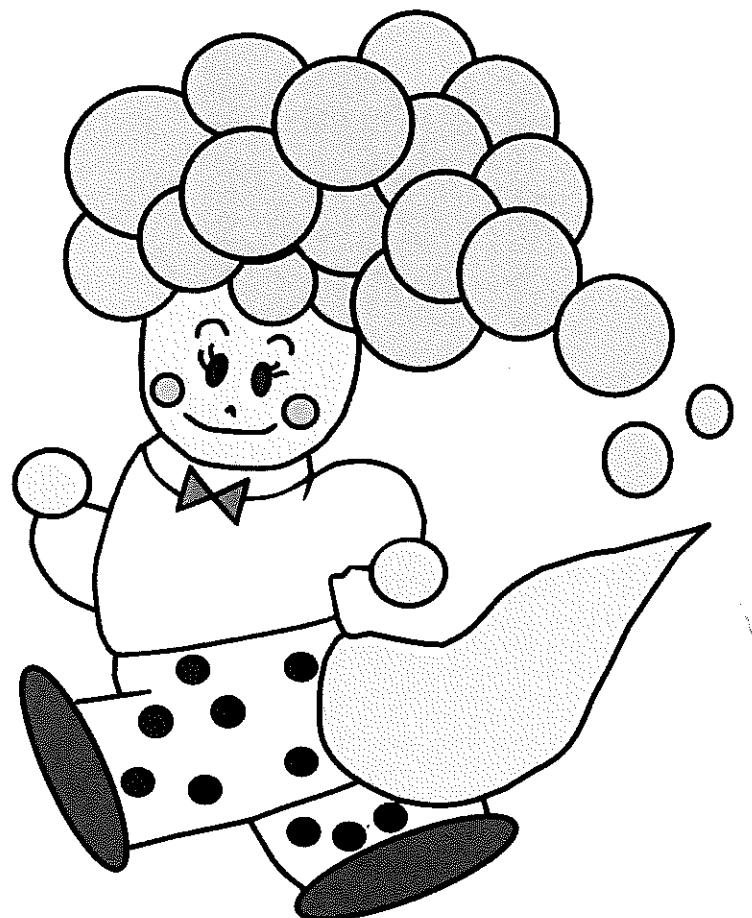


**第2次上牧町地域福祉活動計画
マッキーアクションプラン
平成28年度～平成32年度**



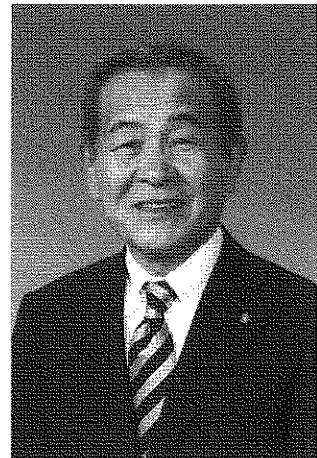
(上牧町社会福祉協議会マスコットキャラクター：マッキー)

平成28年3月
社会福祉法人 上牧町社会福祉協議会



はじめに

上牧町社会福祉協議会の法人化25周年を期に上牧町の地域福祉のあり方や社会福祉協議会の役割について、住民や地域福祉関係団体の皆様と共に議論しながら策定しました「第1次上牧町地域福祉活動計画」も施行から3年が経ちました。「第1次上牧町地域福祉活動計画」では「つながりで紡ぐ福祉のまちづくり」を基本理念とし、4つの基本目標（①身近な地域でのつながりづくり、②福祉のまちづくりへ参加できる仕組みづくり、③住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくり、④地域福祉推進のための連携と協働の基盤づくり）を掲げ皆様とともに上牧町の地域福祉の振興に取り組んでまいりました。



この間、社会経済情勢の変化に伴いかねてから呼ばれていた少子高齢化だけでなく、人口減少、生活困窮や地域のつながりの希薄化など地域における福祉課題はより複雑化してきています。そのような状況のなか、「第2次上牧町地域福祉活動計画」の策定にあたっては第1次活動計画の基本理念を継承しつつ、その成果と課題を整理する一方で地域福祉に取り組む諸団体に丁寧な聞き取り調査を実施し活動者の生の声を盛り込むとともに、行政計画である「上牧町地域福祉計画」と足並みをそろえながら計画を策定することで地域福祉の一体的な推進を目指しました。

本活動計画では「人と人との手を取り合って支えあう福祉のまちづくり」を基本理念に自治会区を地域福祉推進の基礎単位と設定し、住民や関係機関の皆様と共に身近な地域でのつながりづくりや支えあいの醸成に努めてまいります。

最後になりましたが、本活動計画の策定にあたってご指導をいただいた佛教大学の金田喜弘先生をはじめ、策定委員の皆様、聞き取り調査にご協力いただいた地域福祉活動者の皆様に心から厚くお礼申し上げますとともに、今後とも上牧町の地域福祉推進にご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人上牧町社会福祉協議会

会長 今中富夫



第2次 上牧町地域福祉活動計画 目次

はじめに

第1章 地域福祉活動計画の全体像

・地域福祉活動計画策定の背景	1
・地域福祉活動計画の定義	2
・地域福祉計画との関係	3
・計画の期間	4

第2章 上牧町における地域福祉の“いま”

1) 第1次地域福祉活動計画の成果と課題	5
2) 上牧町の地域福祉を取り巻く現状	
・地域福祉を考えるつどいでの意見	7
・地域福祉活動実践者からの声	8

第3章 第2次地域福祉活動計画について

1) 第2次地域福祉活動計画の理念と基本目標	9
2) 計画の体系	11
3) 実施計画	13

第4章 地域福祉活動計画の進行管理と評価

1) 地域福祉を推進するための環境整備	18
2) 進行管理の方法	19
3) 活動計画の評価	19

資料編

i 策定委員会設置要綱及び委員会名簿	20
ii 策定委員・作業委員会等の経過	23
iii 団体ヒアリング結果	27
iv 第1次地域福祉活動計画の評価	36
v 用語解説	39

第1章 地域福祉活動計画の全体像

地域福祉活動計画策定の背景

今日のわが国の社会的な状況は大きく変化をしています。少子高齢化がさらに進み、2025年には、65歳以上の高齢者が3600万人を超える、人口の40%近くまでになると推計されています。高齢者が長生きし、最後までその人らしく暮らせるることはとても素敵なことです。それに伴い、食に関わる問題や交通アクセス、医療のあり方等の多くの課題がそこに潜んでいます。そして、高齢者の層が増えているだけではなく、生まれてくる子ども達の減少も予測されており、さらに少子高齢化に拍車がかかっています。今は、安心して子どもを生み・育て、働き続けることが難しい社会とも言えるでしょう。

また、地域社会の中での関係性の希薄化も叫ばれています。2010年にNHKが「無縁社会」という言葉を用いて、現在の日本の有り様を描きました。無縁社会は、かつて日本社会を紡いできた「地縁」「血縁」といった地域や家族・親類との絆だけではなく、終身雇用が壊れ、会社との絆であった「社縁」までが失われたことを示唆しており、私たちにとっては大きな課題を突きつけられました。昔は、向こう三軒両隣という言葉で表されるように、近隣の関係性は強いものでしたが、核家族化やマンションなどの集合住宅の溢立、急激な都市化により地域社会の中で、関係性を作ることが難しくなってきています。

そして、2008年のリーマンショック後、社会の中での格差や貧困が大きくクローズアップされました。子どもの相対的貧困率^{※①}は1990年代半ば頃から上昇傾向にあり、2009年には15.7%となっています。特にひとり親家庭など大人1人で子どもを養育している家庭が特に経済的に困窮している実態があります。子どもの貧困は、経済的な課題に加えて、子ども達は教育を受ける機会を奪われ、就労や、将来家庭を持ち、子どもを育てる時にまで、困難さを抱えながら生きることを強いられることさえあります。^{※②}2015年より生活困窮者自立支援法がスタートし、就労など自立に関する相談や、住居の確保に関する支援が全国的に進められています。貧困の問題は、単に経済的な課題や就労の問題ではなく、暮らしをトータルにとらえる視点が必要であり、本人と共に歩む姿勢や支援が求められます。

その他にも施策の動向としては、介護保険制度改正に伴う新しい生活支援事業の展開(2015)や子ども・子育て支援制度の本格施行(2016)、障害者差別解消法の動き(2016)など、多くの施策が進められています。これらは、地域で暮らす中で、これまでの既存のサービスや仕組みだけでは対応できない地域福祉課題^{※③}があることを示しており、これからは、地域の状況に合わせ、

地域住民をはじめとして、行政、関係機関・団体、社会福祉協議会等が共に協働しながら、「新たな支え合い」を構築することが求められています。

近年は、高齢者や障がいのある方、子どもなど、対象別の社会福祉と併せて、それらを横断的に捉え、福祉のまちづくりを目指す地域福祉という考え方方が示されています。地域福祉は、「地域福祉とは、住民が地域社会において自立した生活を営むことを可能にするために必要な福祉と保健・医療等のサービス整備とサービスの総合化、福祉の増進・予防活動、福祉環境の整備、住民参加の福祉活動の支援を行い、これらの活動をとおして^{※④}福祉コミュニティの形成をめざす福祉活動の総体」と定義することができます。もう少しありふれると、①だれもが自分らしく誇りを持って地域で生きる、②その地域で共に生き、共に育ち合うまちづくり、③生活者としての主体性の維持と社会活動への参画を目指していると整理できます。これらを進めていくためには、行政、関係団体組織、地域住民等の協働がさらに求められます。協働とは、互いが協力して、共に行動する事を指しています。そして、上牧町の地域福祉を展開するためには、場あたり的な取り組みに終始するのではなく、これからの方針を見据えた計画的な推進が必要となります。

地域福祉活動計画の定義

地域福祉活動計画とは^{※⑤}社会福祉協議会等が呼びかけて、地域住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業を経営する者が相互協力して策定する地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画と整理できます。つまり、これから地域福祉活動をどのように広げていくのかを考えるために、多様な人・団体・組織が参画し策定する事が重要になります。参画とは、単にその場にいるだけではなく、一緒に企画や取り組みに加わる事を意味します。

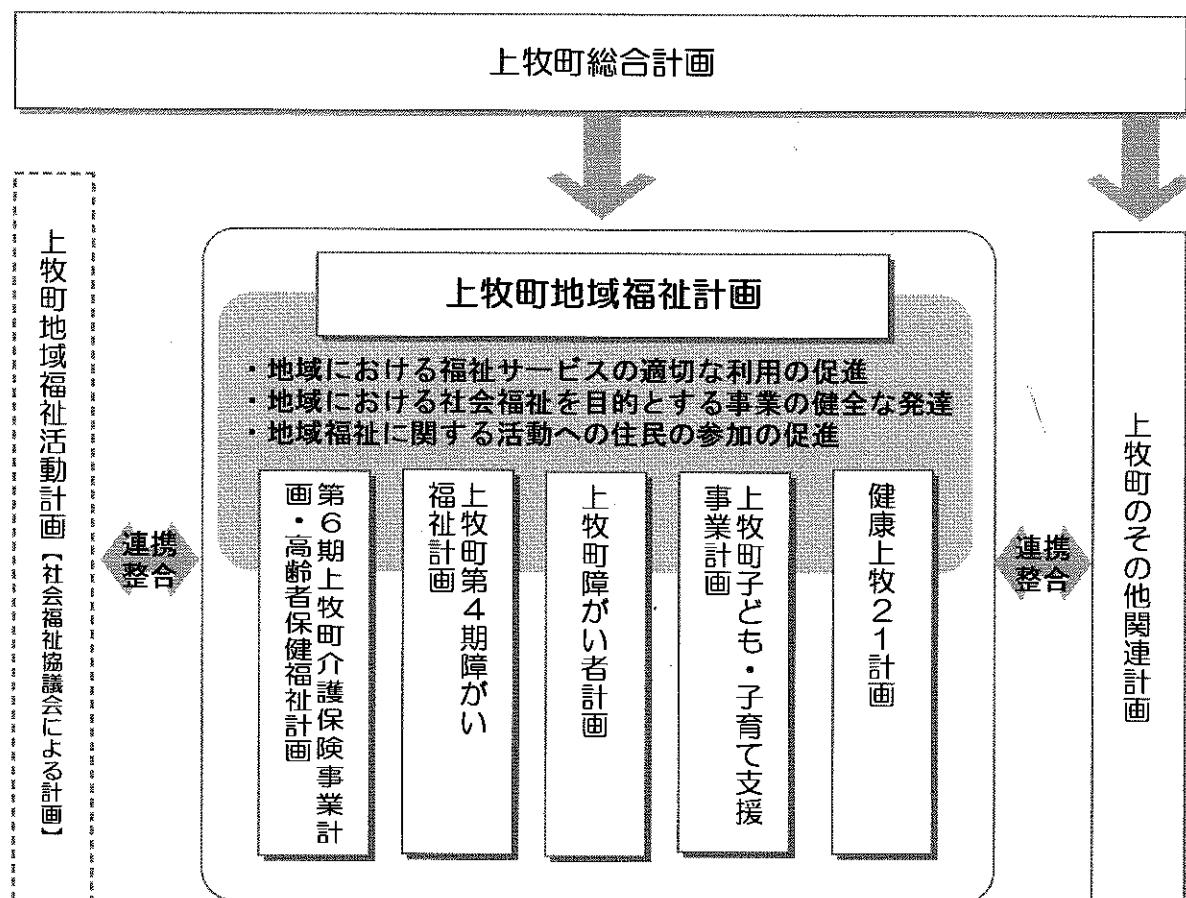
また、地域福祉活動計画は、計画の中で示された内容に対する評価だけに着目するのではなく、策定過程においてどのような話し合いを持ち進めていったのか、そしてそれらを通じて、これまでの関係性がいかに強まり、また新しい出会いが生まれたのかについても評価しながら策定・推進していくことが求められます。そして、よりよい計画策定・推進のためには、多様な団体・組織が同じテーブルに集い、話し合える場(プラットフォーム)づくりを進める上牧町社会福祉協議会の役割も期待されます。

地域福祉計画との関係

地域福祉活動計画は、上牧町の地域福祉活動をよりよく進めるためのアクションプランであり、この計画を基盤に、地域福祉活動が展開されていきます。しかし、この計画だけで、地域福祉が推進されるわけではありません。図1にあるように、上牧町総合計画を上位計画として、各領域別の計画とも連携を図りながら進められていきます。特に地域福祉計画とは、上牧町の地域福祉課題を明らかにし、地域福祉推進の理念等を共有していることが必要となります。そして、地域福祉活動計画の具体化を支援し、その基盤を整備する内容を地域福祉計画に盛り込む等、相互に連携することが求められます。つまり、行政が作成する地域福祉計画と地域福祉活動計画は車の両輪であり、理念や両者に描かれている施策は同じ方向を向いていると言えます。

すでに、2013年から2015年にかけて上牧町社会福祉協議会が中心となり、第1次地域福祉活動計画が策定され、推進されてきました。そして、今回上牧町地域福祉計画が策定されることにより、まさに上牧町の地域福祉推進の土台が作り出されたといえるでしょう。

【図1】



計画の期間

第1次上牧町地域福祉活動計画(以下、「活動計画」という。)は、平成25年度から平成27年度までの3カ年の民間福祉計画として、上牧町社会福祉協議会(以下、「社協」という。)や住民、地域福祉に関わる方々が一緒に策定しました。住民の皆さんに、より親しんでいただけるようにと^{*⑥}『マッキー・アクションプラン』という通称を使用して周知に努めてきました。

第2次活動計画は、第1次活動計画での成果や課題を反映して新たに策定されましたが、行政の地域福祉計画と足並みを揃えるために平成28年度から平成32年度までの5カ年計画となっています。昨今の社会情勢の急激な変化の中では5カ年の計画をそのまま遂行するのは困難なことが予測されますので第4章で触れるように適宜見直しや評価を行います。

第2次上牧町地域福祉活動計画の策定体制

策定委員会

～構成～

住民、福祉関係団体、行政、学識経験者等から選出された21名

～役割～

団体ヒアリングや作業委員会等での検討内容を踏まえて活動計画を審議、検討

第2次

上牧町地域福祉活動計画

つどい等

●意見交換会

策定委員、NPO、学識経験者
奈良県社会福祉協議会、社協の
10名で開催
かんまきタウンカレッジの企画会
議へ発展

●地域福祉を考えるつどい

策定委員有志、NPOなど19名
で開催
団体ヒアリングの結果を基に各
参加者が普段の暮らしの中で
感じている福祉課題について

作業委員会

～構成～

学識経験者、奈良県社会福祉協
議会、社協で構成

～役割～

第1次活動計画の評価や第2次
活動計画の策定に向けた資料整
理、団体ヒアリングの実施等

作業委員会は平成27年4月から活動を開始し、事前学習を含めて計9回、策定委員会は8月から計4回開催されました。この期間中に団体ヒアリングや「地域福祉を考えるつどい」などが開催され、そこでの意見を基に第2次活動計画が策定されました。

第2章 上牧町における地域福祉の“いま”

1) 第1次地域福祉活動計画の成果と課題

総評

社協では、平成24年度に福祉関係団体の皆さんと一緒に地域福祉に係る民間計画である「上牧町地域福祉活動計画 マッキー・アクションプラン」を策定しました。平成25年度から3カ年が計画の期間でした。この計画では、アンケート結果や座談会、ヒアリング調査の結果から明らかになった課題「つながりの希薄化」に対して、「つながりで紡ぐ福祉のまちづくり」を基本理念に誰もが上牧町で安心して暮らし続けられるよう、以下の4つの基本目標を設定し、具体的な活動に取り組みました。

社協では、「地域のつながり」や「住民同士の支え合い」を考える上で基礎となる単位は自治会区であるという考え方のもと、従来より自治会区を単位として※⑦小地域ネットワークの活動の組織化を支援してきました。第1次活動計画においても住民座談会を通し、※⑧身近な生活圏での福祉課題を住民と共有し、サロン活動や見守り活動など具体的な福祉活動への進展がみられました。

基本目標1
身近な地域での
つながりづくり

《活動目標1－Ⅰ 自治会区を基盤とした小地域福祉活動の充実》

【成果】地域福祉活動を推進するための基盤として小地域ネットワークがあり、町内概ね半数の地域で取り組まれています。

【課題】新たな活動者の確保や地域特有の地域福祉課題に対処する活動の検討を進める必要があります。小地域ネットワークで行われている見守り活動の支援を行うとともに地域の実情を把握している関係機関や団体との連携が必要となっています。

《活動目標1－Ⅱ 災害に強いまちづくりを目指した連携の推進》

【成果】毎年、ボランティア団体や関係機関、行政との連携による災害ボランティアセンター運営の訓練を行い、社協の役割について理解を深める働きかけを行っています。

【課題】平時からの住民同士でのつながりづくりや助け合い活動の大切さを意識した取り組みや仕組みづくりが必要です。

～第2次活動計画に向けて～

住民同士でのつながりづくりや助け合い活動、見守り活動への支援を通して地域内で顔の見える関係づくりを支援していきます。



基本目標2
福祉のまちづくり
へ参加できる仕組
みづくり

《活動目標2ーⅠ ボランティアに関する情報発信と学習機会の充実》

【成果】社協によりやHPによる速やかな情報発信に努めました。また、ボランティア活動に関する学習機会としてふれあい社協まつりを開催しており、年々参加者が増えています。

【課題】学童期を対象とした福祉学習の機会の提供ができていない現状です。

《活動目標2ーⅡ 同じ課題を抱える人同士の仲間づくり》

【成果】健康相談と子育てサロンの同時開催による保健師との情報共有ができます。また、^{※⑨}「サロンばけっと」や^{※⑩}「ぶらっと」が同じ課題をもつ人同士の居場所となっています。

【課題】地域で困っていても声を上げられない住民への取り組みが置き去りになってきている現状です。また、社会参加を意識した当事者活動への支援が求められています。

《活動目標2ーⅢ 活動者への支援の充実》

【成果】地域活動に関心をもつボランティア活動者が増えました。^{※⑩}上牧町ボランティア連絡協議会との連携も図られています。

【課題】ボランティア活動者が満足できる活動となるためにもコーディネート機能の充実を図ることが必要です。

～第2次活動計画に向けて～

学童期から福祉に関心をもち続け、活動に結びついていくよう切れ目のない福祉学習の機会の提供が求められています。



基本目標3
住み慣れた地域で
安心して暮らせる
仕組みづくり

《活動目標3ーⅠ 暮らしの課題を受け止める相談体制の強化》

【成果】相談支援の強化が図られ、要援護者の生活を支える仕組みが整いつつあります。

【課題】地域課題を抱えたままになっている要援護者を把握しきれていない現状があります。関係機関との情報共有ができる連携がこれまで以上に必要となっています。

《活動目標3ーⅡ 安心して暮らせるための支援体制の充実》

【成果】訪問介護事業や居宅介護支援事業、介護予防サービスを実施しています。また、就労継続支援事業B型「ぶらっと」の運営も行っています。

【課題】地域の実情に応じたニーズキャッチとサービス開発が充実されていない現状があります。

～第2次活動計画に向けて～

あらゆる暮らしの課題を受け止める相談体制の強化と関係機関との積極的な連携による包括的な生活支援の強化が求められます。

2) 上牧町の地域福祉を取り巻く現状

地域福祉を考えるつどいでの意見～みんなで上牧を考えよう～

平成27年11月2日(月)に策定委員有志により、「地域福祉を考えるつどい」が開催されました。このつどいでは、団体ヒアリングの報告をもとに19名の参加者とともに上牧町の地域福祉課題について議論しました。

①グループ・テーマ「高齢者を巡るトラブル」

上牧町でも万引きや徘徊、交通事故被害、特殊詐欺被害、孤独死など高齢者をめぐるトラブルが起こっています。特殊詐欺被害防止のため注意を促そうと戸別訪問しても出てきてくれない家庭や啓発の場に参加されない人も多く、地域のつながりが希薄化しています。

また、近隣トラブルも起こっています。お互いの顔を知っていればトラブルにはならなかったようなこともあります。SOSをどう出しやすくするか、どうキャッチするかが今後の課題であると話し合われました。

上牧町のバリアフリーについても移動の難しさがあり、自力で行きたいところに行けないという問題も起こっています。問題を解消し住みやすいまちにしていきたいとの思いが共有されました。

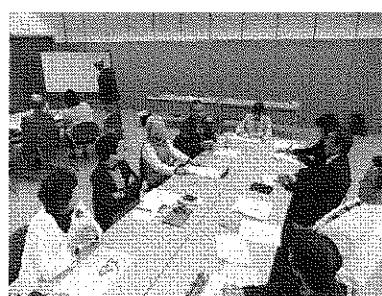
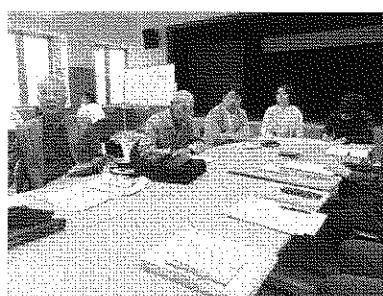
②グループ・テーマ「地域の気になること」

地域の気のこととして、近所のスーパーの撤退が挙げられました。スーパーは人とお話できるつどいの場であったこともあり、それがなくなってしまったことで人と出会う場が減少しました。

また、公園デビューがなかなかできない母親が多くなっており、母親のつながり力の低下も挙げられました。母親だけでなく、さまざまな年齢の子どもが交流する機会が減少しており、子どものつながる力の低下を懸念する意見がありました。

このようにつながりが薄れてきている現状から、小地域ネットワーク活動や地域内での情報共有、誰もがつどえる場づくりが必要ではないかと話し合われました。

皆さんを感じておられる課題はさまざまでしたが、自分のまちに関心を持ち、まちをよくしていきたいという思いは共有されていました。自分の感じていること以外に他の参加者から知る地域福祉課題に耳を傾け、「自分ならこう考える・こうしてはどうだろうか」と新たな意見も生まれました。



地域福祉活動実践者からの声～バス停での出会いから～

地域福祉活動実践者へのヒアリングを通して、活動の担い手不足や世代間交流の不足、困りごとの相談先が分からぬことなど、さまざまな課題が見えてきました。このような課題のなかですべての団体から共通して挙げられたのが「つながりの希薄化」です。

以下では、つながりの希薄化について居場所づくりや見守り活動に取り組んでいる地域福祉活動実践者の声を紹介します。

地域で孤立しているAさん（男性）との出会い

Aさんは60代の男性で一人暮らしをしています。以前は、両親と3人暮らしをしており、母親が健在の頃は地域との関わりもありました。

Aさんが50代の頃、両親に介護が必要となり、そのため仕事を辞めることになりました。数年間の介護の後、父親が他界され、母親との2人暮らしとなりました。

その後、母親も他界され、一人暮らしになると同時に外出しなくなり、地域の誰とも関わらぬ引きこもりがちになってしまいました。

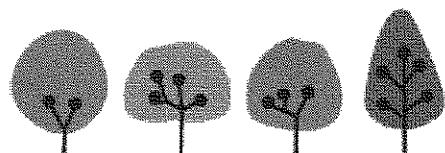
そんなある日、Aさんがバス停のベンチで静かに座っていたところを地域福祉活動実践者のBさんがたまたま通りがかり、気になってAさんに声をかけられました。

BさんはAさんの近況を聞き、話しているなかでAさんがぽつりと「することがなにもない。人と話したのも何日かぶりだ」と言いました。

Bさんは何日も人と話すことなくただバス停で人が通りかかるのを待っていたAさんの気持ちを考えるとAさんのような人も参加できる居場所づくりの大切さを改めて実感したそうです。

Aさんは母親の死がきっかけで、引きこもりがちとなり地域との関わりがなくなってしまいました。「人と話したのも何日かぶりだ」の言葉から近隣住民とのつながりが薄くなっていることが分かります。そんななか、バス停に座っていたAさんのことが気になり声をかけたBさん。地域のことをよく見て、声をかける見守りのアンテナをはっておられることでAさんとの関わりをもつことができました。

地域でのつながりが希薄化しているなか、居場所づくりや見守り活動の重要性はますます高まっています。



第3章 第2次地域福祉活動計画について

1) 第2次地域福祉活動計画の理念と基本目標

基本理念

人と人との手を取り合って支えあう福祉のまちづくり

私たちは、第2次活動計画において、「人と人との手を取り合って支えあう福祉のまち」を目指し、地域福祉を推進します。上牧町に住む全ての住民が互いに違いを認め合い、一人ひとりの暮らしの困りごとをみんなの問題として、解決に向かって取り組む「支え合いのまちづくり」を進めています。特に、住民が互いに顔の見える関係を築き、手を取り合っていくために、自治会区等の身近な地域を大切な基盤と位置づけて取り組んでいきます。

第1次活動計画の成果や課題をふまえ、住民、ボランティア、NPO団体や福祉サービス関係者、行政、社協などが協働して、以下の3つの基本目標を掲げ福祉のまちづくりを進めています。

基本目標Ⅰ 地域で顔の見える関係づくり

身近な地域で福祉課題に取り組む住民が主役の組織「小地域ネットワーク」が、地域のつながりの基盤として広がってきました。

小地域ネットワークの拡充を通して、地域での顔の見える関係づくりやつながりの強化をさらに進めるとともに、地域の実情や特性に合わせて多様な活動が広がるよう継続的に支援していきます。

また、身近な地域での顔の見える関係を基盤に、災害にも強いまちづくりを進めます。

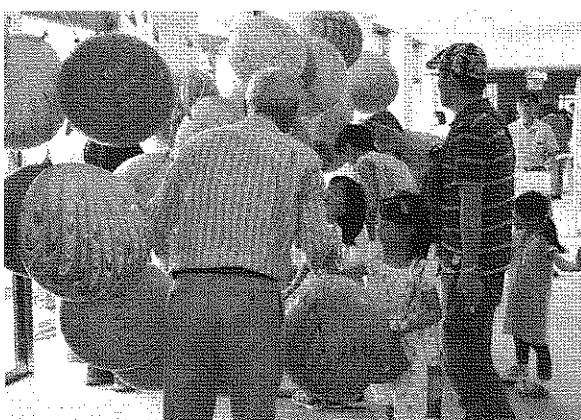


基本目標Ⅱ たれもが地域に参加できる仕組みづくり

地域での福祉活動への期待が高まる一方で、活動者が固定化し担い手不足などの状況が見られます。

さまざまな学びの機会を通して関心や理解を促進し、住民が主役の福祉のまちづくりに参画するきっかけをつくっていきます。

また、さまざまな困りごとを抱える当事者同士の仲間づくりを進めるとともに、多様な人が地域の中で孤立せず役割を持てる場を広げていきます。



基本目標Ⅲ 暮らしの課題を受けとめる相談体制の強化

住民が抱える暮らしの困りごとは多様で、情報不足や相談への躊躇からSOSを出せずに発見が遅れ深刻化することも多くあります。

住民が互いに気にかけ合う小地域ネットワーク活動等とも連携し、住民の困りごとを早期に発見し受けとめる仕組みづくりを進めます。

また、社協の※総合相談の機能を強化するとともに、解決へ向けて関係機関と協働して取り組んでいきます。



2) 計画の体系

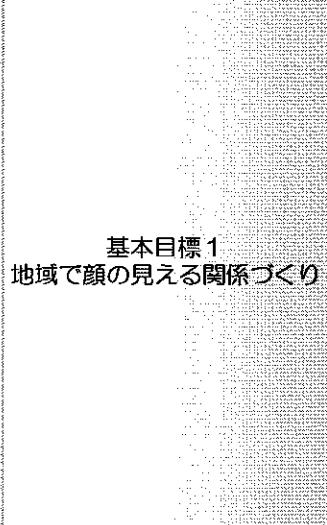
基本理念

基本目標

活動目標

実施計画

人と人との手を取り合つて支えあう福祉のまちづくり



(1) 自治会区を基盤とした小地域ネットワーク活動の拡充

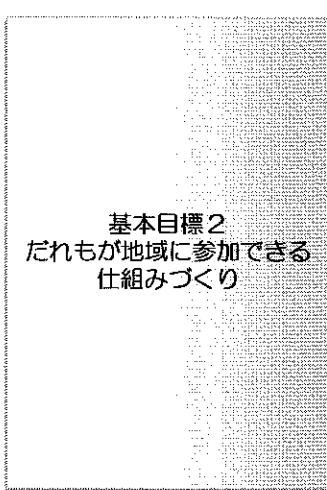
①小地域ネットワークの組織化

②小地域ネットワークの充実

(2) 支え合い活動の充実

①地域にあった活動づくり

②災害にも強いまちづくり



(1) 多様な参加の機会づくり

①多様な人のつどえる場づくり

(2) 学びの機会提供

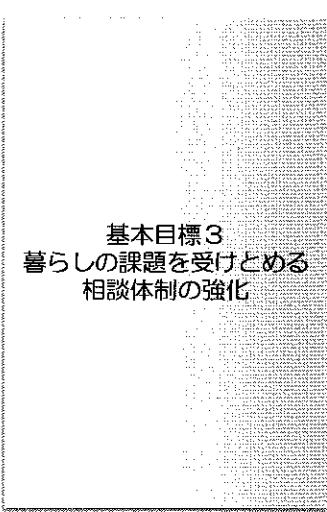
①学童期を対象とした福祉教育

②活動のきっかけへと結びつく学習会

(3) 地域活動者への支援

①ボランティア活動支援の強化

②活動者の横のつながり支援



(1) ニーズ把握の充実

①地域を基盤としたニーズ発見の仕組みづくり

②課題を漏らさず受けとめる体制づくり

(2) 関係機関の連携強化

①関係機関との協議の場づくり

実施計画

社協の基盤整備

- i. 住民座談会の開催
- ii. 小地域ネットワーク組織化支援
- i. 小地域ネットワーク連絡会の開催
- ii. 各地域の中で見えてきた課題共有
- i. サロン等の居場所づくり
- ii. 見守り・助け合いの活動づくり
- i. 災害時対応訓練の実施
- ii. 行政・自主防災組織との連携
- i. 当事者の社会参加を通じた理解の促進
- ii. 同じ悩みを持つ人の仲間づくり
- iii. 子どもの居場所づくり
- i. 福祉教育プログラムの提供
- i. かんまきタウンカレッジの開催
- ii. ボランティア講座の開催
- iii. 社協まつりの開催
- i. ボランティアコーディネート機能の強化
- ii. スキルアップ講座の開催
- ※① iii. 「ちょボラ」等の情報発信の充実
- i. 上牧町ボランティア連絡協議会への支援
- ii. 町内ボランティアのネットワーク化
- i. 小地域ネットワーク等と連携したニーズキャッチ
- i. 総合相談機能の強化
- ii. サービス調整会議の開催による社協内連携
- i. 関係機関との連携
- ii. 専門機関との調整会議の開催

地域福祉を推進するための基盤整備

①財務基盤の強化

②職員の専門性向上と組織力の向上

③理事・評議員会の充実

④事業運営の透明性の向上

⑤他の社会福祉法人との連携・協働

3) 実施計画

基本目標
1 地域で顔の見える関係づくり

活動目標（1）自治会区を基盤とした小地域ネットワークの拡充

- 身近な地域で福祉課題に取り組む住民が主役の組織として「小地域ネットワーク」を町内全ての自治会区での設置をめざし支援します。
- 小地域ネットワーク連絡会等を通して、活動者が情報交換し学び合うことで活動の基盤を強めていきます。

《実施計画》

- ①小地域ネットワークの組織化
 - i. 住民座談会の開催
 - ★ ii. 小地域ネットワーク組織化支援
- ②小地域ネットワークの充実
 - i. 小地域ネットワーク連絡会の開催
 - ii. 各地域の中で見えてきた課題共有

《評価指標》

- ・小地域ネットワーク数：
(H28) 11カ所
⇒(H32) 23カ所
- ・モデル地区の選定による新しい活動の普及

活動目標（2）支え合い活動の充実

- 身近な地域で住民の気づきから福祉課題に対する取り組みに結びつく地域の実情や特性に合った活動づくりを支援します。
- 住民の気にかけあう関係が災害時にも発揮できるよう平時から災害に関係する取り組みを行います。

《実施計画》

- ①地域にあった活動づくり
 - i. サロン等の居場所づくり
 - ★ ii. 見守り・助け合いの活動づくり
- ②災害にも強いまちづくり
 - i. 災害時対応訓練の実施
 - ii. 行政・自主防災組織との連携

《評価指標》

- ・災害時対応訓練開催：年1回

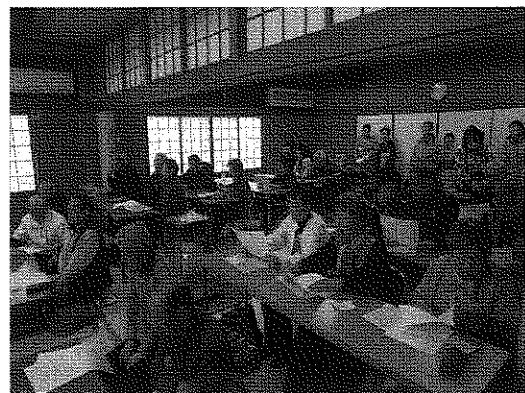
★…新規事業および重点事業

コラム①～広報を通じた見守り活動～

桜三会（桜ヶ丘3丁目の小地域ネットワーク）は季節ごとの催し物を開催し、住民同士の交流を図っています。常に声かけを大切にしており、催し物を開催するときは地域の方々に参加を呼びかけます。桜三会の会長は男性の参加が少ないため、次々に電話をかけて参加を呼びかけています。そのおかげで参加している男性陣はいつも仲良しな様子。いつものメンバーに加え、初めてか久しぶりかの出会いが催し物ごとにあります。

また、桜三会では毎月広報誌を発行し、桜ヶ丘3丁目に全戸配布しています。世話人が地区ごとに分けて配布していますが、それもすべてインターホンを押して顔を見て渡しています。その際に今度の催し物の参加の呼びかけと近況を聞かれます。このように広報誌を配布する際にお一人おひとりの様子を見守り、不在の場合はメモを残し気にかけていることを伝えています。

桜三会では積極的に声をかけ合う見守り活動が根付いています。



コラム②～自分たちのまちの気になる人マップ～

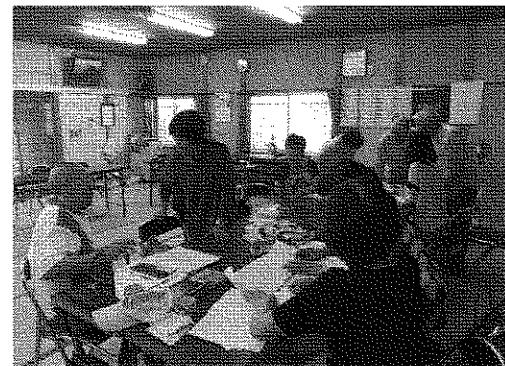
虹の会（米山台の小地域ネットワーク）は、高齢者の引きこもり防止や地域内の交流を目的に月1回のペースでサロンを開催しています。

サロンでは世話人が常に参加者を気にかけ、近況や健康状態など積極的にコミュニケーションを図るように心がけています。その結果、サロン参加者の常連さんの姿が見られず他の参加者が心配するような時にも、世話人はきちんと常連さんの予定を知っていて「今日は○○さんはお出かけされているみたいですよ」と声かけしています。

サロンの終了後には必ず世話人の打ち合わせが行われ、参加者の様子などそれが感じたことを共有しています。

そんな虹の会では、サロンでのミニ座談会から「気になる人マップ」の作成に取り組むことになりました。きっかけは参加者の「自分たちのまちに一人暮らしのお年寄りが何人ぐらいいるのか分からない」という声でした。一人暮らしの高齢者に限らず、地域には様々な人が暮らしています。子育て世帯や障害者世帯、引きこもりの人などまちの中で互いに気にかけ合いながら暮らしていくことが出来ればもっと安心して暮らせるまちになるのでは、との思いから、まずは隣近所で「気になる人」を住宅地図を使って視覚化し共有するところから取り組みが始まりました。

完成した地図をもとに虹の会の世話人で担当地区を割り振り、買い物やお散歩など普段の暮らしの中で挨拶をしたり、直接訪問してサロンへのお誘いをするなど、見守り活動が開始されました。



活動目標（1）多様な参加の機会づくり

- 就労継続支援事業「ぷらっと」を拠点として地域における障害者への理解を促進します。
- 多様な人が地域で役割を持ってまちづくりに参画するため、地域と関わりを持つ機会づくりを進めます。
- 悩みを持つ人が地域の中で孤立することのないよう、仲間づくりと居場所づくりを進めます。

《実施計画》

- ①多様な人のつどえる場づくり
 - ★ i. 当事者の社会参加を通じた理解の促進
 - ii. 同じ悩みを持つ人の仲間づくり
 - ★ iii. 子どもの居場所づくり

《評価指標》

- ・「ぷらっと」による配食サービスの試験実施（新規）
- ・地域子育てサロン開催：
(H28)1カ所⇒(H32)2カ所
- ・子どもの学習支援の開催（新規）

活動目標（2）学びの機会提供

- 学童期を対象とした福祉教育プログラムを提供することで福祉やボランティア活動への親しみを持てる機会を作ります。
- 住民が福祉活動に関心を持ち活動へと結びつくきっかけとなるよう学びの機会の提供や情報発信の充実を図ります。

《実施計画》

- ①学童期を対象とした福祉教育
 - i. 福祉教育プログラムの提供
- ②活動のきっかけへと結びつく学習会
 - ★ i. かんまきタウンカレッジの開催
 - ii. ボランティア講座の開催
 - iii. 社協まつりの開催

《評価指標》

- ・かんまきタウンカレッジの開催：月1回（新規）
- ・ふれあい社協まつり開催：年1回

活動目標（3）地域活動者への支援

- ボランティア活動に関心のある人が活動に参加できるよう支援します。
- 活動者の悩みや気づきに寄り添い、より活動を深められるような支援をします。
- 福祉ボランティアに限らず、広くボランティア活動者がつながれるような機会を提供します。

《実施計画》

- ①ボランティア活動支援の強化
 - i. ボランティアコーディネート機能の強化
 - ii. スキルアップ講座の開催
 - iii. 「ちょボラ」等の情報発信の充実
- ②活動者の横のつながり支援
 - i. 上牧町ボランティア連絡協議会への支援
 - ★ ii. 町内ボランティアのネットワーク化

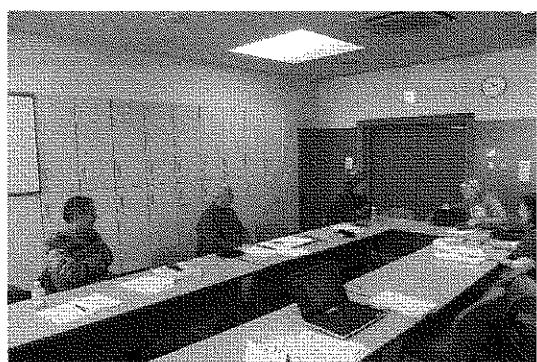
《評価指標》

- ・スキルアップ講座の開催：年1回
- ・ボランティア交流会の開催

コラム③～新たな担い手発掘プロジェクト～

平成27年9月29日に「意見交換会」を開催し、団体ヒアリングの中間報告をもとに意見交換を行いました。そこでは中高年の引きこもりなど人とつながれる場の必要性やボランティアの高齢化など担い手不足が課題として共有されました。上記の課題に対して「つどえる場づくり」と「新たな担い手の発掘」を目指して、住民発議のプロジェクトが立ち上りました。

このプロジェクトは地域活動に関わりの少ない方にも参加してもらえるような講座を開催し、「生きがいづくりと活動者の育成と交流の場」を目指します。プロジェクト会議では現在、住民が興味を持って参加できるようなカリキュラムを検討しています。このプロジェクトは『かんまきタウンカレッジ』という名称で平成28年度に開講予定です。



活動目標（1）ニーズ把握の充実

- 小地域ネットワーク等の身近な地域での活動と連携することで暮らしの困りごとをいち早く発見します。
- 社協の総合相談機能を強化することで発見した暮らしの困りごとを漏らさず受けとめます。

《実施計画》

- ①地域を基盤としたニーズ発見の仕組みづくり
 - ★ i. 小地域ネットワーク等と連携したニーズキャッチ
- ②課題を漏らさず受けとめる体制づくり
 - i. 総合相談機能の強化
 - ii. サービス調整会議の開催による社協内連携

《評価指標》

- ・サロン等での福祉ニーズの発見
- ・生活支援コーディネーターの受託
- ・サービス調整会議の拡大

活動目標（2）関係機関の連携強化

- 関係機関との情報共有や協議の場をつくり、住民の暮らしの困りごとに連携して対応します。

《実施計画》

- ①関係機関との協議の場づくり
 - i. 関係機関との連携
 - ★ ii. 専門機関との調整会議の開催

《評価指標》

- ・行政や関係機関との調整会議の開催

第4章 地域福祉活動計画の進行管理と評価

① 地域福祉を推進するための環境整備

本計画で目指す「人と人との手を取り合って支えあう福祉のまちづくり」の推進には住民の参加だけでなく、地域福祉推進の中核的機関としての社協の基盤強化等が重要となります。

社協は社会福祉法の改正を踏まえながら、下記の通り、社協の基盤整備に取り組みます。

①財務基盤の強化

地域福祉の活動に取り組む様々な団体や住民の活動を安定的に支援するためには社協の財務基盤の強化が必要です。町行政に対して社協の役割を理解してもらう働きかけを行い、地域福祉部門への公的助成の安定的確保を目指します。また、事業費については社協会費や共同募金等の自主財源確保を目指します。

②職員の専門性向上と組織力の向上

地域福祉課題の多様化に伴い、社協職員に求められる資質や知識はより深化し広範になってきています。職員の職種や経験年数等に応じた研修等に参加し専門性の向上に努めるとともに、社協内部でも担当業務や職種を横断したケース検討会や職場内研修を開催し社協内の連携を強化することで個々の職員の専門性だけでなく社協としての対応力の向上を目指します。

③理事・評議員会の充実

理事・評議員会は社協の経営組織として様々な協議や決定を行う機関です。役員研修などを通じて各役員に社協の役割や制度改正等に伴う情報提供を行うことで、理事・評議員会がより充実した会議を目指します。

④事業運営の透明性の向上

財務諸表や事業計画、現況報告書などをホームページ上で公表し、社協の運営状況の透明性を向上を目指します。

⑤他の社会福祉法人との連携・協働

平成28年度に予定されている社会福祉法の改正に関連し、社会福祉法人が一体となって地域での公益的な活動に取り組めるように地域協議会への参画や地域内の他の社会福祉法人との連携・協働を目指します。

2) 進行管理の方法

第2次活動計画は平成28年度から5カ年を対象としています。活動計画を推進していくためには進行管理を行い達成度を評価することや社会情勢の変化などによる計画見直しの必要性について定期的に確認していくことが大切です。

社協では、理事会・評議員会において各年度ごとの事業計画や事業報告を審議するとともに事務局においても進行状況について自己点検を実施します。また、社協による進行管理だけでなく、第2次活動計画の策定委員有志による「地域福祉を考えるつどい」を定期的に開催し、その場において進行状況を報告するとともに必要に応じて計画の見直しについて議論します。

3) 活動計画の評価

活動計画の評価にあたっては、前章3節の実施計画に規定されている評価指標に基づき評価を行います。

また、数値による目標設定がなじまない事柄についても「地域福祉を考えるつどい」での議論や必要に応じてヒアリングやアンケートなどの調査を実施し評価します。

活動計画に記載されていない事柄についてもニーズに対応し必要と考えられる取り組みを実施します。